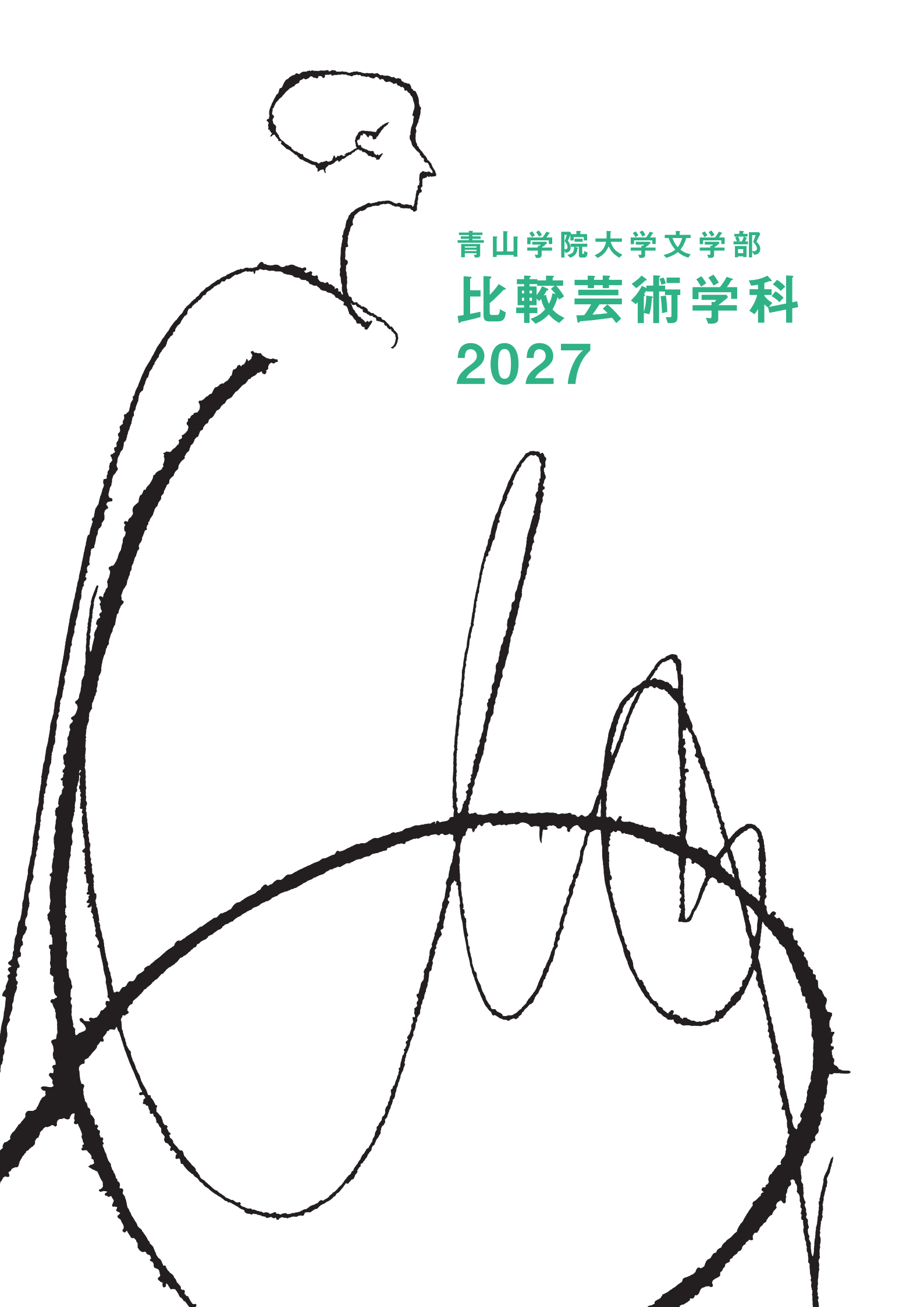




青山学院大学文学部

比較芸術学科

2027

いまなぜ、 比較芸術学科なのか

もし、あなたが何か一つの芸術に心を惹かれ、それを学問として学びたいと願うなら、比較芸術学科は、広く門戸を開いてあなたを待っています。

本学科は、「美術」「音楽」「演劇映像」という3つの領域で構成されています。大きな特徴としては、はじめから一つの領域に絞らず、特に1年次、2年次では、どの領域もまんべんなく学ぶこと。本来、芸術は一つひとつが独立しているのではなく、相互に関わり合って発展してきたものですから、その全てを広く学んで、「比較」できる教養を身につけるのです。

もう一つの特徴は、芸術の中でも「古典」を

重視したカリキュラムのもと、芸術作品を数多く鑑賞しては、レポートに表す経験を積み重ねること。過去数千年の歴史を生き永らえてきた芸術には、これから先も簡単には廃れない、普遍的な価値があります。そんな古典に向き合い、深い知識をもとに自分の感動を言葉に紡ぎ、第三者に伝わる文章で表現する——それはすなわち、世界はどう美しいのかを表すことであり、本物の美を知るあなたは、時代に流されない価値観を抱いてこれからの人生を歩んでいけることでしょう。

「真に古いもののみが永遠に若々しい」(E. G.イエイエル)。本学科で、そんな学びの実感を手にしてみてください。



美術

西洋美術

宗教や神話にまつわる美術の主題と図像について／
美術史の歴史と方法論の批判的考察 など

日本・東洋美術

様式の歴史的変遷／日本と東洋の造形比較 など

音楽

西洋音楽

古代ギリシア以来の名曲を学ぶ／政治・宗教との関係／
音楽理論や楽譜の変遷／楽器と演奏法／録音技術の影響 など

日本・東洋音楽

音楽を生み出した人々の美意識／仮面舞踊や音楽劇等との関係 など

演劇映像

日本古典芸能

歌舞伎・能・演芸／近代への移行期における西洋文明との出会い など

西洋演劇

演劇が文化に果たした役割 など

映像・映画

その誕生と発展／映画作家とさまざまな表現／
現代社会にもたらした影響 など

まずは、3つの領域の芸術を
比較しながら体験的に学びましょう。
やがては、自分に最も合った
専門領域を選択し、学びを深めます。

3

つの領域と主な科目

比較芸術学科 学びの4つの特色

1 芸術を 「比較」しながら学ぶ

「比較」による学習・研究は、この学科の学びの基本です。1年次の「比較芸術学入門」は、本学科の専任教員によりオムニバス形式で行われるものです。展覧会や演奏会、舞台、映画の鑑賞を前提に、その解説とレポート作成によって、「美術」「音楽」「映像演劇」の実際を比較しながら体験的に学びます。1・2年次の「各領域と文芸A/B」でも、2分野以上を選択することで、各領域と文芸との関係とそれぞれの本質を学びます。

2 文章の デッサン力を鍛える

1年次の「比較芸術学入門」から3・4年次の「比較芸術学演習」に至るまで、生の作品鑑賞を基本とする学習・研究を積み重ねます。そこで書き上げる鑑賞レポートは単なる感想文ではありません。美術なら形体や色調、構図その他、音楽なら楽器や声の音色、アンサンブルその他、演劇映像なら役者の所作やせりふ回し、演出等々、細部に至る観察による言語化（ディスクリプション）の訓練を義務づけ、文章のデッサン力の獲得を目指します。

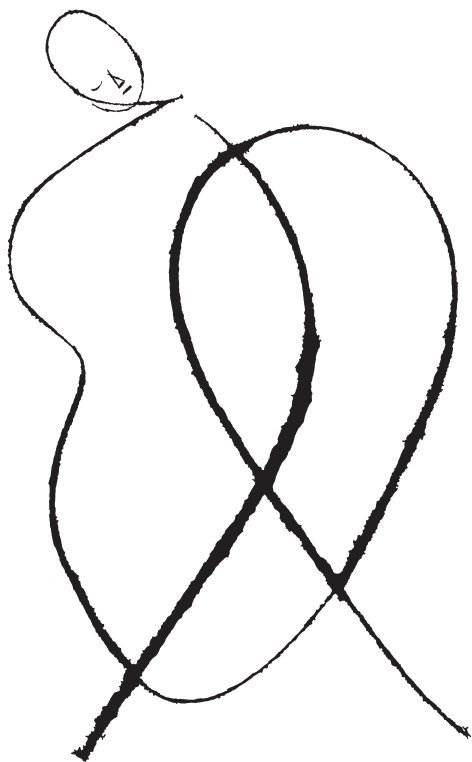
3 芸術鑑賞の基本を学ぶ

「芸術鑑賞の方法」では、そこに何が表され、何を意味しているのかという美術解釈の基本となる図像学をはじめ、具体的な美術作品の調査法、絵画や彫刻の簡単なデッサンの技法、西洋音楽や日本伝統音楽の楽曲分析、古い楽譜の解読や演奏法、日本古典芸能や西洋演劇では演技者や舞踏家による実技を前提とした所作や動きの意味、道具の役割など、作品鑑賞に必須の基礎知識を学びます。

4 古典テキストを読む

生の芸術作品を鑑賞することと並行して、古典テキストの読解にも力を入れます。芸術作品は、いわば歴史や文化の「非文字資料」ですが、やはりそれらの編年や意味の詳細を理解するには、文字資料であるテキストの読解が不可欠です。ある国の美術や音楽、演劇映像を真に理解するには、その国々の言語を理解せずして済ますことはできません。「原書講読」では、英語はもちろん、漢文・古文のテキストも取り上げます。

※ 15～16頁の「カリキュラムガイド」もあわせてご覧ください。



美術

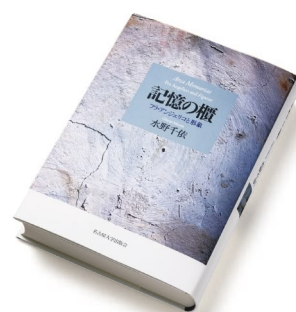
古典的な美術作品は、経年による変化はありつつも、「もの」として存在し続けています。作品自体は変わらないのに、時代ごとにその作品の価値が変わるのはなぜなのでしょう。それは、作品に新たな価値を見だし、今の感性と言葉をもって社会にその意義・評価を改めて問うという行為があつてこそのことです。美術領域では、幅広い知識を学ぶ第一歩として、実際の作品を自分の眼で見て感じ、考え、レポートにまとめる経験を積み重ねることを大切にしています。その作品がもともと誰のためにつくられ、どこに飾られていたのか、想像を巡らせる。日本美術と西洋美術を比較したり、音楽や演劇映像の領域で得た知識も生かしたりする。そうして数多くの名作品に触れて、言葉を丹念に紡ぐ訓練を積むうちに、あなたの感性は間違いなく磨かれて、一生を支える価値観が培われることでしょう。



みずの ちより 水野千依

西洋中世・ルネサンス美術史

京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。博士（人間・環境学）。専門は中近世美術史。主著に『イメージの地層』（名古屋大学出版会、2011年、サントリー学芸賞、フォスコ・マラーニ賞、他受賞）、『キリストの顔』（筑摩書房、2014年）、主な共訳書にディディ＝ユベルマン『残存するイメージ』（人文書院、2005年）、カルロ・セヴェーリ『キマイラの原理』（白水社、2017年）など。新刊は『記憶の櫃——フラ・アンジェリコと形象』（名古屋大学出版会）。



『記憶の櫃——
フラ・アンジェリコと形象』

中世からルネサンスにかけての西洋美術を研究しています。ルネサンスというと、レオナルドやミケランジェロなどのいわゆる「名作」を思い浮かべる方が多いでしょう。私は、歴史に名を残したこうした芸術家たちの作品について伝統的な美術史学の手法で研究を重ねるとともに、近代以降に指定されてきた「美術」という概念からはこぼれ落ちるような像——作り手もわからないキリスト教の礼拝像、人の手を介さずに生み出された奇跡像、幻視や夢に現れる像、等——をいかに歴史のなかに

位置づけ直すかを歴史人類学的視座から考えてきました。近年では、過去と対話しつつ、歴史の闇や忘却——戦争、暴力的破壊、ホロコースト、レジスタンス——に向き合う現代の作家たちにも関心を持ち、歴史を縦断して息づく図像記憶の問題について考えています。授業では、西洋美術の基礎知識や方法論を学びつつ、イメージと人間が結び結ぶ多様な関係を俯瞰し、イメージにそなわる潜在的な力について皆さんと対話できればと思っています。



いけのあやこ 池野 絢子

近現代の西洋美術史

京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。博士（人間・環境学）。専門は西洋の近現代美術・視覚文化。特に20世紀イタリア美術。単著に『アルテ・ポーヴェラ——戦後イタリアにおける芸術・生・政治』（慶應義塾大学出版会、2016年）。分担執筆に、木俣元一・松井裕美編『古典主義再考Ⅱ 前衛美術と「古典」』（中央公論美術出版、2021年）、小田原のどか編『彫刻2——彫刻、死語／新しい彫刻』（書肆九十九、2022年）等。



『アルテ・ポーヴェラ——
戦後イタリアにおける芸術・生・政治』

私は近現代の西洋美術史、特に20世紀イタリアの芸術を研究しています。

20世紀の芸術というと、よく分からない、難しい、と感じるかもしれません。詩人シャルル・ボードレールによれば、近代とは二面性をもっており、その半分は「一時的なもの、うつろい易いもの、偶発的なもの」で、もう半分は「永遠なもの、不易なもの」だといいます。今日にいたる芸術上のさまざまな実験は、まさにその時代の諸相を映す鏡であるとともに、途切れること

なく連綿と続いてきた歴史の根源に通じる道でもあります。

20世紀は、新しい形態の芸術表現が次々と開花した一方で、二度の世界大戦や度重なる国家間の争いによって、人類が未曾有の危機を経験した時代でした。その芸術には、困難な時代における個人の生の証言と、時代を跨いで受け継がれる人類の肖像の両方が表れています。変わるものと変わらないもの、新しいものと古いものを、表裏一体のものとして感じ取れるようになると、近代から現代にいたる芸術はずっと面白くなりますよ。

特別授業をご紹介します 1

◎第7回比較芸術学会大会《2019年度》

岡 岩太郎氏

「文化財修理の現在

——装演修理の現場から」

株式会社岡墨光堂
の代表取締役を務

める、岡岩太郎氏
に講演していただ

きました。標題の
「装演」とは書画
の修理を行うこと

を意味します。岡墨光堂は、日本の国宝・重要文化財を中心とした絵画、書籍・典籍、歴史資料の保存・修理を担う国宝修理装演師連盟の傘下にあり、氏は日々、工房を牽引するとともに、その理念と技術の維持と向上、さらには、次世代を見据えての後進の育成に心血を注いでおられます。講演では、作品の保存修理の基本理念、要請される技術力と必要不可欠な材料について、さらには、作品そのものを引き立てる装装裂等の選定（取り合わせ）に求められる感性についても話題が及んで、時には現場のスライドを交えながらお話しいただきました。



◎第10回比較芸術学会大会《2022年度》

濱口竜介監督

「映画と笑い」

世界の映画祭、批評家連盟から数多くの賞を授与された『ドライブ・マイ・カー』などの作品で知られる映画監督・濱口竜介氏をお招きしました。抜粋上映されたのは、伝説の無声喜劇俳優バスター・キートンから、フランスの喜劇作家ジャック・タチ、ポルトガルの巨匠マノエル・デ・オリヴェイラほか手がけた名場面。創意工夫の凝らされた映像が流れると、学生の間には、まず賛嘆の入り混じった動揺が拡散し、少し遅れて笑いの波が。間違いなく面白いものの、謎めいてもいて、戸惑わずにいられない……しかし、それこそが「映画の笑い」の最も貴重な点であると監督は言います。笑いつつ啞然とするような映画、未知との遭遇をぜひ大事にしてほしい。そんなメッセージで講演は締めくくられました。





いでみつ さ ち こ 出光佐千子

日本近世絵画史

慶應義塾大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士（美学）。池大雅の国宝「楼閣山水図屏風」に出会い、大学院へ進学。2003年から4年間、ロンドンの大英博物館日本部門に勤務後、東京の出光美術館で学芸員として、「小杉放電と大観」（2009年）、「江戸絵画の文雅——魅惑の18世紀」（2018年）等の展覧会を開催。出光美術館館長。主な著書に『池大雅「真景」論攷』（中央公論美術出版、2023年）、『美の回廊』（出光美術館 門司、2025年）等。



『美の回廊』

江戸時代で、今や世界的に最も知られている水墨画の巨匠といえば、伊藤 若 冲（1716－1800）ですが、当時、若冲より人気があった池 大雅（1723－1776）を研究しています。大雅は、戸外で描くのが好きで、モネより150年も前に色彩の点描で柳の葉のゆらめきを描き出した天才画家です。また、旅の記憶に基づいた「真景図」という実景図を描いては、新奇なものを好む人々の評判になりました。詩文結社のサロンに集う中国通の漢詩人たちは、最新の中国式喫茶や七弦琴などを楽

しみながら、大雅の画に詩文をつくって寄せました。

授業では、作品と詩文の双方を読み解くことで、詩・書・画を一体として味わう文人画の鑑賞方法を学びます。また、都市図をテーマに、大雅が憧れた雪舟など水墨画の古典、中国の名勝山水図、「洛中洛外図屏風」などの都市風俗画と幅広く比較し、18世紀の都市図における「人間讃歌」の様相を掘り下げます。美術を通して自国の文化を深く知ること、国際的に活躍する道も自然と拓かれることが期待できるでしょう。

◎芸術鑑賞の方法Ⅰ（3）ゲスト講師《2023年度》

ニコル・ルーマニエル教授 「大英博物館で マンガ展を開催するまで」

ロンドンの大英博物館で2019年、日本の漫画の大規模な展覧会が初めて開催されました。3カ月で約18万人の来館者があり、



同博物館の企画展として過去最高記録となりました。この展覧会のキュレーターであり、日本学研究者でもあるニコル・ルーマニエル教授を迎えて、なぜ大英博物館でマンガ展が実現したのか、大規模展覧会の舞台裏について熱く語っていただきました。日本の漫画の芸術性のみならず、マンガが日本を超えた世界的規模の社会現象であることを示すには、世界の叡智が集まった大英博物館こそふさわしい。そんなストーリーに、学生たちは心を動かされていました。原画の線の美しさや、漫画と陶磁器の分業制の類似点など、豊かな感性と発想の大切さを学んだ授業でした。

◎比較芸術学入門B・特別講演会《2025年度》

瀬戸山美咲氏 「エンターテインメントと芸術」

劇作家・演出家の瀬戸山美咲さんは、社会問題に切り込むドラマから大劇場のミュージカルまで、ジャンルを自由に往来しながら創作を続けています。ご講演をうかがって少しずつ見えてきたのは、どの仕事にも共通する姿勢でした。善悪のものさしでは測れない人間の複雑さをすくい取ろうとする手つき、観客が自分の頭で考えられるよう、あえて「わからない部分」を残す工夫、そして効率より仲間との交流を大切にする稽古場。学生の質問にも一つひとつ真摯に向き合ってくださいました。社会の分断が深まり、人々の好みもばらばらになる今、瀬戸山さんは創作でも日々のふるまいでも、垣根を越えた対話を重ねています。その開かれたあり方に触れ、私たちも新たな活力を受け取りました。





音楽

音楽は「時間芸術」であり、美術のように、目で見て特徴を論じることができません。例えば、現代とは楽譜も異なり、録音も残されていない時代の音楽をどう理解するか。楽譜の読み方はもちろん、その楽曲がつけられた社会的背景や当時の演奏法、ギリシア神話や聖書との関連など、とにかく幅広い知識が必要となります。そうした知識をもとに分析して理解し、過去の音楽の素晴らしさに気づくうちに、あなたの目は開かされ、的確な言葉で音楽を表現するすべが身につくことでしょう。グレゴリオ聖歌、パレストリーナ、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、ショパン、チャイコフスキー、ワーグナー、ストラヴィンスキー、そしてビートルズ……。メロディーもコードも出尽くして、傑作の誕生に行き詰まるような今だからこそ、過去一千年の古典の真価を学び、これからの人生のかけがえのない宝としませんか。



なすてるひこ 那須輝彦

中世ルネサンス・バロック音楽史

立教大学大学院文学研究科組織神学専攻博士後期課程退学。ケンブリッジ大学大学院修士課程修了 (Master of Philosophy)。中世からバロック時代にかけての西洋音楽史、とくにイングランド教会音楽史と音楽理論を専攻。著作に『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』（共著、ミネルヴァ書房、2013年）、『ルネサンス・ポリフォニー選集』（共編、2017年、カワイ出版）、『ミクロログス（音楽小論）』（共訳・共著、春秋社、2018年）など。



『ミクロログス（音楽小論）』

中世ルネサンス～バロック時代の音楽を研究しています。中世の音楽理論などと聞くとほのか昔の難解な話に聞こえるでしょう。でもじつは西洋音楽の根本を考えるとということなのです。例えばピアノの鍵盤はどうしてあいうえお並び方をしているのか、ドレミの階名は誰がどうして考え出したのか、音楽を楽譜に表すためにヨーロッパ人はどんな工夫を重ねてきたか……。当時の状況に身を置いて思考経路をたどるのはとてもスリリングなことです。もちろん実際の楽曲もすばらしい。十字軍時代に騎

士たちが詠んだ愛の歌、大聖堂に響いていた清らかなア・カペラのミサ曲、宮廷の祝祭を彩った舞曲……。ピアノはまだなく、好んで奏でられていたのはチェンバロやリュートでした。皆さんにとって未知の名曲がどれほどあることでしょう。そしてそれを知ることが、皆さんの音楽性をどれほど豊かにすることでしょう。400年も500年もの時空を超えて音楽世界に旅し、知られざる名曲がどのように作られ、どんな場でどのように演奏されていたのか、音楽の知の探究に出かけましょう！



ひろせ だいすけ 広瀬大介

西洋音楽史・19～20世紀のドイツ・オペラ史

一橋大学大学院言語社会研究科・博士後期課程修了、博士（学術）。著書に『オペラ対訳×分析ハンドブック リヒャルト・シュトラウス／楽劇ばらの騎士』『リヒャルト・シュトラウス 自画像としてのオペラ』（以上アルテスパブリッシング）、『世界史×音楽史 知っておきたい！ 近代ヨーロッパ史とクラシック音楽』（音楽之友社）など。『レコード芸術ONLINE』など各種音楽媒体での評論活動のほか、NHKラジオへの出演、演奏会曲目解説・CDライナーノーツの執筆、オペラ公演・映像の字幕・対訳などを多数手がける。



『オペラ対訳×分析ハンドブック
リヒャルト・シュトラウス／
楽劇ばらの騎士』

圧倒的な魅力を放つ芸術作品に接したときに感じる、みずからの心の「震え」をなんとかして他者に伝えたい、と思う瞬間があります。ただ、その言葉以前の心の「震え」を他者に伝える手段として、我々は言葉以外のそれを持ち合わせていません。とくに音楽においては、その言語化が難しい。音楽そのもののありようを言葉で他者に伝えるのは永遠のテーマであり、私自身も常に試行錯誤しています。

音楽に限らず、芸術作品の魅力を伝えるために必要なのは、作

品そのもののありようを的確に描写できる文章力を磨くことでしょう。さまざまな方法でトレーニングを重ねることで、芸術作品から受け取れる自身の情報量は格段に増えます。自身の心の「震え」は、その後にそっと添えるだけで十分な効果を発揮することでしょう。比較芸術学科は、そんなトレーニングを絶え間なく続け、この世の美しいものの魅力を発信し続けたいところぞす教員と学生が、同志のように互いを励まし合う、私にとって本当に大切な場なのです。

特別授業をご紹介します 2

◎比較芸術学入門B・特別講演会《2021年度》

鈴木雅明氏

「バッハと賛美歌

——“いざ来たりませ、異邦人の救い主”を中心に」

バロック音楽の演奏団体として世界最高峰の一つに数えられるバッハ・コレギウム・ジャパン（バッハ当時の仕様の楽器を使



うオーケストラと合唱団）の創設者・指揮者で、ご自身が優れたオルガン・チェンバロ奏者でもある鈴木雅明氏（東京藝術大学名誉教授）をお招きして、レクチャー・コンサートを開催しました。会場は巨大なパイプ・オルガンを備えた本学のガウチャー記念礼拝堂。鈴木氏は、バロック音楽の巨匠バッハが、賛美歌のメロディーを使っていかに素晴らしいオルガン曲を作り上げているか、実演を交えて解き明かしてくださいました。学生たちはバッハの深淵なアレンジの技に驚嘆し、また神業のような手さばき・足さばきで壮大な音を繰り出す鈴木氏のオルガン演奏に酔いしれました。

◎第12回比較芸術学会大会《2024年度》

将棋棋士・佐藤天彦九段

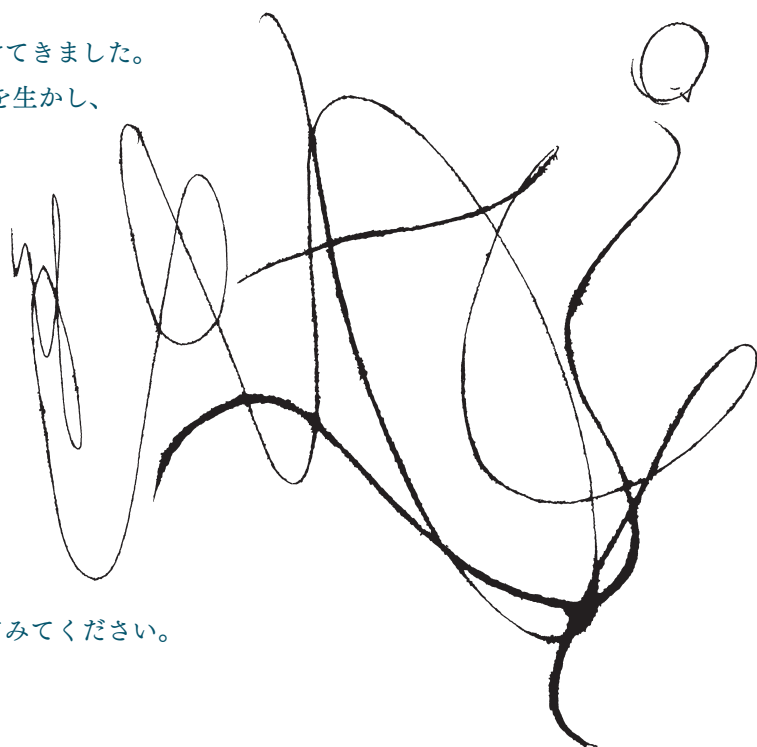
「AI時代に将棋の『美』を追求する」

本講演会は、2016年から名人位を3期つとめたトップ棋士、佐藤天彦九段をお招きし、西洋音楽史を専門とする広瀬大介先生との対談形式で進められました。クラシック音楽、とくにモーツァルトを愛し、造詣が深い佐藤九段。そのお話は、人間の實力を凌駕したAIの登場によって、棋士たちがAI研究に熱中する現状を認めつつも、なんとかして将棋の指し手に「美」を見出すことはできないか——そんな可能性について、音楽の「美」と同時並行的に語る、という、実に刺激的な内容でした。勝ち負けのある将棋の世界では、実際に勝って結果を出さないと、指し手の「美」も認められない。そのような芸術の世界とは違った特有の難しさもあり、学生にとってたいへん示唆に富んだ内容となりました。



演劇映像

人類の歴史とともに歩んできた演劇は、
人生の喜怒哀楽を豊かに描き、社会に問いを投げかけてきました。
19世紀末に生まれた映画もまた、演劇にはない手法を生かし、
映画ならではの表現を探し求めながら、
地域ごと、時代ごとに発展を遂げていきます。
ここでは、そんな演劇映像の大きな流れを、
連続的かつ総合的に学ぶことができます。
なおかつ、それぞれを「比較」できるだけの
知識を身につけることで、
地域や時代による表現の「固有性」、
「そこにしかないもの」が、
はっきりと浮かび上がって見えてくることでしょう。
演劇映像は、音楽や美術といった
他分野の要素も含む「総合芸術」です。
ほかの領域で得た知識も生かしながら、学びを深めてみてください。



さとう 佐藤かつら

歌舞伎ほか、日本の古典芸能分野

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士（文学）。
鶴見大学文学部専任講師、同大学准教授を経て2012年に青山学院大学文学部に着任。著書に『歌舞伎の幕末・明治——小芝居の時代』（ベリかん社、2010年）、校注に『円朝全集』第一・十・十二巻（岩波書店、2012年・2014年・2015年）等。近年の論文に「女役者と近代——その出発点」（『アジア遊学』232、東アジア古典演劇の伝統と近代）勉誠社、2019年）ほかがある。現在は女役者・市川九女八の年譜を調査中。



『歌舞伎の幕末・明治——小芝居の時代』

かけ声が飛び交い、舞台と客席が一体となる歌舞伎の熱狂が好きで、「観客とは何か」ということに興味を持ち、より多くの観客が観ていた大衆的な歌舞伎（小芝居）について研究を進めてきました。最近のはかつて存在していた女性の歌舞伎役者について調査しています。基本的に男性のものとされる歌舞伎の世界において、女性たちの芸はどのようなものだったのか、芸をどのように高めていったのか、追究しています。
授業では能、狂言、人形浄瑠璃（文楽）、歌舞伎、話芸など日

本の古典芸能を扱いますが、おそらく多くの皆さんには最初、なじみが薄い分野だと思います。でも知らないままではもったいないことです。日本で育まれてきた芸能の歴史や特徴を知れば知るほど、新しい発見があると思います。日本の芸能の持つ独自の言語表現や身体表現、舞台表現の豊かさと魅力を知り、知識として蓄える。さらには自分なりの問題意識を持ってそれらの芸能に向き合い研究を進めていく、そういった学びができるようにつとめています。



みうら てつや 三浦哲哉

映画・表象文化論・食文化研究

東京大学大学院総合文化研究科超域文化研究科表象文化論
コース博士課程修了。博士（学術）。著書に『演出をさが
して』（濱口竜介・三宅唱との共著、フィルムアート社、
2025 年）、『自炊者になるための 26 週』（朝日出版社、
2023 年）、『LAフード・ダイアリー』（講談社、2021 年）、
『食べたくなる本』（みすず書房、2019 年）、『サスペンス
映画史』（みすず書房、2012 年）など。雑誌や新聞に映
画・食文化をめぐる評論・随筆を寄稿。



『演出をさがして 映画の勉強会』

おもにアメリカ、フランス、日本の映画表現について研究して
います。現在は、一切の演技なしで劇映画をつくろうとした特
異な映画作家ロバート・ブレソンの本を執筆中。見返すたび
にその美しさに胸を打たれ、彼の創作の秘密をどうすれば解き
明かせるか、頭を悩ませています。

授業の中心テーマは「映画表現」です。小説とも、漫画とも、
絵画とも、演劇とも、似ているようでちがう、「映画」ならで
はの美しさや感動はどこにあるのか。古今東西の名作を取り上

げ、じっくり吟味しながら、学生の皆さんと一緒に考えてゆき
たいです。

また、「20 世紀は映画の世紀である」と言われます。映画が爆
発的に普及し、テレビ、インターネット動画へ引き継がれさら
に拡散したことで、私たちのものの見方、世界の捉え方は、良
くも悪くも劇的な変化を遂げました。この変化はいかなるもの
だったのでしょうか。「映画以後」を生きる私たちの感性はど
のようにつくられたのでしょうか。一緒に考えてみませんか。



いのうえ ゆりこ 井上由里子

演劇学・フランス演劇

大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻・博士後期課程
単位取得退学。博士（文学）。共著にLa République des
traducteurs. En traduisant Valère Novarina（『翻訳家たち
の共同体——ヴァレール・ノヴァリナを訳しつつ』、
Hermann, 2021 年）、Valère Novarina. Les tourbillons de
l'écriture（『ヴァレール・ノヴァリナ——エクリチュールの渦』、
Hermann, 2020 年）、共訳に『シャルロット・ベ
リアンと日本』（鹿島出版会、2011 年）。



『翻訳家たちの共同体——
ヴァレール・ノヴァリナを訳しつつ』

演劇は、はかない芸術です。幕が下りると跡形もなく消えてし
まいます。観客なしには成立せず、観客の記憶にしか残りませ
ん。劇場に足を運び、今を生きる古典のみずみずしさをともに
味わい、そして心ゆくまで語りあいましょう。演劇も、人生も、
一期一会です。

演劇の古典は遠いようで近い存在。ミュージカル『マイ・フェ
ア・レディ』や『ライオンキング』の背景を探ると、ギリシア
神話から日本の文楽まで、さまざまな古典が息づいています。

テレビや映画でおなじみの「ドラマ」も、語源をさかのぼれば
哲学者アリストテレスの演劇論にたどりつきます。

教室では、古代ギリシアから現代までの 2500 年に及ぶ西洋
演劇の歴史をひもといていきます。さらに戯曲の精読や上演映
像の分析を通して舞台を観る眼を養います。

私は西洋演劇、なかでもフランスの近現代演劇を研究していま
す。近現代の演劇人にとって古典は創作の豊かな源泉です。こ
れからどんな新しい作品が生まれてくるのでしょうか。

在校生が語り合う、 比較芸術学科ならではの魅力

ここで学んだからこそ得られたこと、素晴らしい経験について、
4年生の3人に、たっぷりと語り合ってもらいました。



3領域を代表して集まってくれた3人。

左から、眞島寧々さん（演劇映像・佐藤ゼミ）、森野日向子さん（美術・水野ゼミ）、丸山紅茜さん（音楽・広瀬ゼミ）。

——まずは、なぜこの学科を目指したのか、志望動機を教えてください。

森野 中学では美術部、高校では演劇部に入っていて、芸術には幅広く関心がありました。美術と演劇の経験、どちらも生かしたいと思ったときに、何か一つの専門的な領域に特化しているのではなくて、3領域を比較しながら横断的に学んでいける環境が、もうまさにぴったりだなと感じて。高校の美術の先生にも勧めていただいて受験しました。

眞島 大学で何を学ぼうかと考えながら高校で楽しかった授業を振り返ったら、世界史の授業で教わった美術史が思い浮

かんかったです。いろんな大学の文学部のパンフレットを見ていたら、比芸の卒業生の卒論が「美術史に見るファッション」とか面白そうなタイトルで。受験の方式も、共通テストと小論文というのが自分に合っていました。最初は西洋美術史を学ぼうと思って受けました。

丸山 私は5歳からずっとピアノを続けてきました。将来を考えたとき、プロの音楽家になるつもりはないから音大は違うけれど、やっぱり学びたいと思うのは音楽で。比芸は、音楽学をちゃんと学べるところが魅力的でした。総合大学だから、一般教養的な勉強もできるのが将来

に役立つようにも思いました。クラシック音楽がすごく好きなので、学びが古典クラシックに限定されているのも私にはよかったんです。

——いざ入学して、1年次で記憶に残っていることはありますか？

森野 比較芸術学入門というオムニバスの授業で、もともと関心のあった美術や演劇以外の分野を学んだことです。たとえば映画なら、一つひとつの画面の構成に意味があって、絵画の構図と同じような効果が発揮されていることがわかって。それまでは登場人物に感情移入してストーリーを楽しんでいるだけだったんです

知らない知識をしゃべり合える友達ができたと、 授業がすごく楽しくて、充実していました

けど、別の観点から鑑賞する技能が必要で、使っていなかった筋肉が刺激されるみたいな難しさがありました。映画や音楽を学んでも、美術や演劇と同じ見方ができる部分もたくさんある。そうして自分の領域の学びが深まっていくのが、比芸ならではだわかりました。

眞島 私は西洋美術を学ぼうと思っていたんですけど、1年次の後期で歌舞伎の授業を受けたら、隅田川とか、実家のある蔵前あたりの地名がたくさん出てくるんです。歌舞伎って格調高い感じだけど、意外と身近なんだと衝撃を受けて、それが古典芸能ゼミに入ったきっかけです。

丸山 覚えているのは、豆知識がどんどん増えていったことかな。美術館に行っても、授業で習ったあの構図と似ているな、ちょっと調べてみようかなっていうふうに、1年間だけでも見る目が変わりました。あと、同級生や先輩が何かしらの芸術分野に詳しいから、普通にしゃべっていたら、急に映画をめっちゃ語っているとか（一同笑）。自分が同じように音楽の話をして、みんな引かないで聞いてくれるし、知らない知識をしゃべり合える友達がたくさんできたのもいい環境だったなって思います。



眞島 大学で古典芸能を学ぶなら日本文学科が主流だと思うんですけど、そうすると日本文学科の友達しかできなかったりしますよね。比芸だと古典芸能を学んでいるのに、西洋音楽などを学んでいる友達ができるのがいい。違う分野の友達の話を聞くと知識が広がっていきます。

——皆さん、これについてはつい語ってしまうという分野があるんですね。

眞島 私は入ったばかりのときはなかったです。丸山さんは、推しがショパン。

丸山 ショパン大好き（笑）。卒論もショパンでいこうかなって思っています。

眞島 私は坂東玉三郎さんが推しなんですけど、丸山さんは「推しは推せるうちに見ておいたほうがいいよ」って。

丸山 私の推しはもういないから（笑）。

森野 比芸で扱ってないジャンルで推しがいる人もたくさんいます。私の友人は演劇メインで学んでいるんですけど、一番好きなのは宝塚。宝塚の勉強は授業で中心的にやるわけではないんですが、歌舞伎からの流れとかもあって、自分が好きで鑑賞しているものと勉強している分野が重なっていくから面白いみたいです。

眞島 アニメとか漫画とか2.5次元とか、そういうのを比芸ならいっぱい話せます。歌舞伎の「知らざあ言って聞かせやしょう」みたいな七五調のリズムがあるじゃないですか。漫画やアニメで、めっちゃいまのセリフいいなと思って数えてみたら、七五調だったりするんですよ。

丸山 こういう人がいっぱいいるから、比芸は面白いな。



——では、芸術の中でも古典のよさってどんなところにあると思いますか？

眞島 歌舞伎の『白浪五人男』は盗人が活躍するんですけど、追っ手が来ているのに立ち止まって自己紹介するんです。それが「戦隊もの」の名乗りのシーンの原型になっているとか、いま私たちが当たり前に楽しんでいる芸術の元になっている。なんで自分がこれをいいと思うのか、その答えが古典にあったりします。

丸山 音楽なら、クラシック音楽って何百年も前の曲ですよね。それが毎週末のようにコンサートで演奏され続けているのは、古くから洗練されてきた型があるから。時代の流れを超えて愛されてきたものが古典になっていて、やっぱり美しいものなんだと思って学んでいます。

森野 音楽の授業で学んで印象的だったのは、たとえば日本では同じ年末の時期に演奏される「第九」。時代ごとに文化や流行は変わり、その曲が持っている意味や捉えられ方は変わっても、作品自体はずっと残り続けるのだと。それは音楽に限らず、古典芸術全般に言える素晴らしいさだと思っています。

丸山 第九はいい……。聴くと本当に感動する（笑）。

答えのない芸術について、考え続けて言葉にする。 その力は、今後の人生の糧になると考えています

——それぞれのゼミで学んでいることを教えてください。

森野 私は西洋美術の水野ゼミに所属していて、高校時代から好きなスペインの画家ベラスケスをメインに研究しています。水野ゼミは、学生一人ひとりがやりたい研究を持ち寄って、各自で発表していく形式で進めるんです。私たちは好きなことがそのままできていいんですけど、水野先生はそれに対して全部コメントしてくださいまし、適切な文献も教えてください。先生の視座の広さはすごいと感じますね。

眞島 古典芸能ゼミの3年次の前期は、佐藤先生が能・狂言・人形浄瑠璃・歌舞伎・落語・芸談の中から1作品ずつ選んでくださって、そこから好きな作品の台本を選んで現代語に訳し、作品分析をして発表したりします。台本の一言一言に込められた意味を知るのがすごく楽しくなったのは、この作品分析をやったから。卒論は、歌舞伎の中でも写実的なジャンルの「生世話物」について、西洋演劇のリアリズムと比較しながら研究しようと考えています。西洋演劇については井上先生に聞けるし、それぞれの専門家の知恵を得られるのが心強いです。

丸山 広瀬ゼミは、まず基礎知識と楽曲分析を学びます。それを踏まえて3年次は個人発表、4年次は卒論を書き、各自が好きな作曲家の好きな曲を好きな視点で見ていくという感じ。基礎知識と楽曲



分析は4年生と3年生が1対1でペアを組んで学んでいくのが特徴で、最初は先輩に教えてもらって、今度は教える立場になって。やっぱり後輩に伝えなきゃいけないから、そのために自分でももっと勉強しようと思うし。そういう学びが代々つながってきているんです。

——最後に、ここで学んで得られたことと、志望者の方に向けてメッセージをお願いします。

森野 絵画という抽象的なものを言葉でディスクリプションしていく学びの中で、自分の考えや概念を言葉にする能力が培われました。現代はAIも発達してきて、物事に対しての答えがすぐに手に入ってしまうような時代ですけど、芸術は答えのない分野なので、それに対して常に自分の頭で考え続けて言葉にする能力というのは、今後の人生でずっと糧になるものだと思っています。

眞島 何かを見ていいなと思ったとき、なぜ自分がそう思うのか、その理由を考える癖がつきました。それを考えるときに、古典芸能って本当にヒントになるし、学ぶ中で自分自身の「好き」を見つめ直せたように思っています。メッセージとしては、入学したら、なるべく積極的に好きなものを見たり友達と話をしたりし

たら、きっと世界が広がっていくと思う。

丸山 4年間、授業がすごく楽しかったのがよかったなと思っています。覚えなきゃいけない、テストで点数を取らなきゃいけないという高校までの勉強とは全然違って。最初はあまり詳しくない分野でも、学ぶうちに面白いと思える授業を積極的に受けられた。好きな音楽と芸術の勉強ができる環境に進学して、楽しめたし、充実していました。

もし、いま進路に迷っている人がいたら、これを勉強してみたいなと思う気持ちを大事にしてほしいと思います。やってみたくとか、興味がある、ワクワクする。そういう気持ちに素直になって進路を決めてみていいんじゃないかな。

森野 やっぱり自分の好きなものを一番大事にしてずっと追いかけてほしい。私自身がそうなんですが、入学までに何か特別なコンクールに出たといった経験はなくて、ただちっちゃな、芸術に向ける「楽しい」という気持ちをかき集めたら、比喩がぴったりだったという感じなので。いまの時点で大きなことが思い浮かんでいるわけではなくても、芸術を楽しめると思う気持ちがあったら、新しいことを学んでいける環境だと思う。ぜひ挑戦してみてくださいね。

なぜ自分がそれを見ていいと思うのか、
答えやヒントが、古典芸能の中にあったりします

卒業生からのメッセージ

知の源泉を訪ねて

株式会社毎日新聞社

比較芸術学科 2023 年度卒業

奥 萌奈さん

卒業から早いもので数カ月。思い出すと、大学時代は何にも代え難い貴重な時間だったと実感します。講義を受けてはその足で美術館へ、休日はコンサートに演劇など、学生証を携えて東京の文化施設を駆け巡る日々でした。コロナ禍が落ち着いてからは、好きが高じて岩手県でのアートプロジェクトの立ち上げに参画したり、憧れのウィーンに行ったり。そんな時間の中で、偶然にも新聞社の文化事業の存在を知り、今に至っています。芸術は言わば「知の源泉」。この学科での学びが、ビジネスの世界においてアイデアのヒントになっています。社会人としては駆け出しの身ですが、ここで得た知見を糧に、近い将来、日本における芸術文化の発展に寄与したいと思っています。皆さんもこの青山の地で、ご自身の「好き」を大いに開拓してってください。



「消えない引き出し」をつくる

東京藝術大学大学院

比較芸術学科 2024 年度卒業

菊地 恵さん

比較芸術学科のよさを一つ挙げるなら、1、2年次で各領域の芸術をシャワーのように浴びて、幅広く学べる点です。私は3年で日本美術に進みましたが、西洋美術と比較できたり、1年次で能や狂言を何度も見た経験が生かされたり……たとえるなら、自分の中に「消えない引き出し」がたくさんできて、そこには芸術に関する知識が整理されている。これから何を学ぶにしても、そのいくつかを引き出せば考えを深められる、行き詰まることはない。そんな心強さがあるのです。学芸員資格取得の勉強をするうちに文化財保存学に興味を抱くようになり、この春からは東京藝術大学大学院に進み、保存科学研究室で学び始めています。長い人生の傍らには、芸術があるほうが間違いなく楽しいはず。あなたも卒業する頃には、好きなことや「引き出し」が、きつといっぱいできますよ。



芸術を言葉にする力

歌舞伎役者

比較芸術学科 2025 年度卒業

市川團子さん

演劇の中でも、歌舞伎は演出家がつかず、役者自ら演出も兼ねる点が独特かもしれません。だからこそ、役者は自分自身や舞台全体のこと、さらには世の中の流れも俯瞰する「離見の見」や、演出の狙いを言語化して他者に的確に伝える力が必要だと考えています。比較芸術学科で学んだ4年間は、まさにそんな力を育むことができた時間でした。芸術作品を鑑賞し、なぜそれに心を動かされるのか、知識をもとに突き詰めて思考し、言葉にする。貴重な文献に触れて学べたのはもちろん、先生方が培ってこられた、厚みのある知識を直に授かったのは、かけがえのない経験でした。あらゆる芸術は、衣食住と同じくらい、生きるうえで必要不可欠なものです。芸術を一生懸命学んだ先には、自分の人生の軸となるものが必ず見つかる。この学科で、それを実感していただけたらと願っています。



卒業後の進路

本学科の学生が取得可能な資格は、学芸員、司書、社会教育主事。芸術分野への道はもちろん、一般企業への道も広く開かれています。

2025 年度 進路・就職先（一部）

■大学院・大学・専門学校

専門学校桑沢デザイン研究所

青山学院大学大学院

甲南大学大学院

東京藝術大学大学院

University of the Arts London

■建設業

株式会社備広

株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザイン

■情報通信業

NTTデータグループ

キャノンITソリューションズ株式会社

株式会社大和総研

インフォメーションシステムズ

株式会社バンダイナムコビジュアル

株式会社福岡放送

株式会社楽天グループ株式会社

■卸売業・小売業

神鋼商事株式会社

ルイ・ヴィトンジャパン株式会社

■金融業

東京三協信用金庫

株式会社横浜銀行

■不動産取引・賃貸・管理業

株式会社西武不動産

りそなリース株式会社

■保険業

太陽生命保険株式会社

東京海上日動火災保険株式会社

日本生命保険相互会社

■専門・技術サービス業

株式会社CCG

ENTERTAINMENT

フューチャー株式会社

■宿泊業・飲食サービス業

株式会社帝国ホテル

■生活関連サービス業・娯楽業

株式会社乃村工務社

株式会社パソナグループ

藤浪小道具株式会社

■印刷・同関連業

サンケイ総合印刷株式会社

株式会社マガジンハウス

■運輸業・郵便業

全日本空輸株式会社

日本航空株式会社

■教育・学習支援業

株式会社公文教育研究会

■地方公務員

千代田区

神奈川県

つくばみらい市

カリキュラムガイド

○カリキュラムの特徴

「比較学習」「古典重視」「鑑賞教育」の3つに集約されます。「比較学習」は、3領域それぞれの時代的・地域的比較はもとより、領域相互の比較検討、そして他の人文諸学との比較も含まれます。芸術が本来、各ジャンルの相互関連により成り立っていることを前提としたものです。「古典重視」は東西の古典テキストの読解を重視すること、「鑑賞教育」は生の芸術作品の鑑賞を踏まえた教育です。

基礎から専門へと、段階を追ってカリキュラムは設定されます（右頁の略図参照）。大切なのは、まず固定観念を棄てること。そして改めて、自分に最も合った専門領域を探っていくことです。結果としてそれは、幅広い芸術的視野からの学習・研究を可能とし、将来的には社会への着実な貢献を約束してくれるでしょう。

学科科目（必修）	20 単位
学科科目（選択必修）	50 単位
外国語科目	8 単位
青山スタンダード科目	24 単位
自由選択科目	26 単位
卒業要件単位	128 単位

○課外ワークショップの実施

美術館・博物館、劇場・ホールに出向き、美術・音楽・演劇映像を鑑賞します。鑑賞後のレポート作成は、感じたことを言葉にし、他人に伝えるという訓練に直結しています。

1 年次	鑑賞教育の基礎を学ぶことにより、Ⅰ美術・Ⅱ音楽・Ⅲ演劇映像それぞれのジャンルの通史的理解を前提に、それと同時代の諸文芸との関連を比較・学習することで、芸術系3領域それぞれの特性のより明確な把握を目指す。
2 年次	各領域における「基礎演習」「原書講読」「鑑賞の方法」などの専門科目の比較学習・研究を徹底することにより、各領域それぞれの共通性や異質性への学問的認識を深める。

専門基礎科目		比較芸術学入門A／比較芸術学入門B／西洋の文芸と美術A 西洋の文芸と音楽A／西洋の文芸と演劇映像A／ 日本・東洋の文芸と美術A／日本・東洋の文芸と音楽A／ 日本・東洋の文芸と演劇映像A	芸術と文学／芸術と法
専門 選択科目 (イ)～(ホ)までは 上記による、2つ 以上の領域から単 位を取得すること	(イ)		西洋の文芸と美術B／西洋の文芸と音楽B／西洋の文芸と演劇映像B／日本・
	(ロ)		基礎演習Ⅰ(1)(2)(3)、Ⅱ(1)(2)、Ⅲ(1)(2)(3)
	(ハ)		原書講読Ⅰ(1)(2)(3)、Ⅱ(1)(2)、Ⅲ(1)(2)(3)
	(ニ)		【芸術鑑賞の方法Ⅰ】(1) 絵画の制作を通じた美術作品の鑑賞法 【芸術鑑賞の方法Ⅱ】(1) 中世・ルネサンス・バロック音楽の記譜法 【芸術鑑賞の方法Ⅲ】(1) 歌舞伎と歌舞伎舞踊の表現や仕組み
	(ホ)		【比較芸術学特講Ⅰ】(1) キリスト教文化における造形イメージのあり方 (6) 日本中世近世絵画における「描かれた祭り」と名所 【比較芸術学特講Ⅱ】(1) 近代フランス音楽の「三大作曲家」フォーレ・ (5) リヒャルト・ワーグナー 歌劇『タンホイザー』 【比較芸術学特講Ⅲ】(1) フランスの演劇人「ヴァレール・ノヴァリナ」作品
	(ヘ)		
	(ト)		
選択科目			美学・芸術思想Ⅰ・Ⅱ／西洋の宗教と芸術／日本・東洋の宗教と芸術
外国語科目		英語講読Ⅰ／英作文／オーラル・イングリッシュ	英語講読Ⅱ
全学共通科目		青山スタンダード科目 学部・学科の所属に関わりなく、専門領域を超えてさまざまな学問分野の知識を身につけます。	
自由選択科目		学科科目、青山スタンダード科目、外国語選択科目の必要単位以上の履修、文学部共通科目、文学部他学科、他学部開講科目の履修が可能です。	

3つの領域を相互に関連させ、理論学習と体験・実践学習とを組み合わせながら、学びを深めていきます。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
専門基礎科目(必修)			
専門選択科目			
美術領域 西洋美術、日本・東洋美術を対象とし、2年次に「基礎演習」、3・4年次に「比較芸術学演習」を中心に学んでいきます。			
音楽領域 西洋音楽、日本・東洋音楽を対象とし、2年次に「基礎演習」、3・4年次に「比較芸術学演習」を中心に学んでいきます。			
演劇映像領域 日本の古典芸能、西洋演劇、映像・映画を対象とし、2年次に「基礎演習」、3・4年次に「比較芸術学演習」を中心に学んでいきます。			
選択科目			

3 年次 2年次よりひきつづき、比較学習、研究を徹底する。各領域の専任教員のもとで本格的な演習の履修がはじまり、より専門性の高い教育内容の修得を目指す。	4 年次 各領域ゼミナールとも選択必修科目の「特別演習」と「特別演習（卒業論文）」により卒業論文（本文2万字程度）の作成指導を行い、専門的研究の出発点とする。各専門領域の知識のさらなる修得に努める。
--	---

※領域は次のように表されます。

I 美術／II 音楽／III 演劇映像

東洋の文芸と美術B／日本・東洋の文芸と音楽B／日本・東洋の文芸と演劇映像B
(2) 西洋美術作品の鑑賞法と鑑賞発表 (3) 国内外の美術館・博物館の成立史と鑑賞法 (2) バロック音楽における修辞学 (3) 民族音楽学・音楽人類学からみる世界各地の多様な文化 (2) 歌と踊りのない演劇はなぜヨーロッパで生まれたのか (3) 映画におけるドキュメンタリーとフィクションについて (2) イメージとマテリアリティ（物質性） (3) 西洋美術史学の方法と歴史 (4) 近現代彫刻史とその展開 (5) 日本文人画と近代の「東洋憧憬」 (7) 神像彫刻の出現と展開 (8) 日本における「異神の図像学」 ドビュッシー・ラヴェル (2) 義太夫狂言の音楽的な特徴 (3)・(4) チャイコフスキーのオペラ《エヴゲニー・オネーギン》の楽曲分析 『ローエングリン』研究 (6) オペレッタ研究 ヨハン・シュトラウス二世『こうもり』 フランツ・レハール『メリー・ウィドウ』 分析 (2) 西洋近現代演劇における「祝祭」概念の変遷 (3)・(4)「歌舞伎における悪」 (5)・(6) アメリカと日本の映画通史
比較芸術学演習 I A (1)・(2)～I D (1)・(2)、II A (1)・(2)～II B (1)・(2)、III A (1)・(2)～III C (1)・(2)
特別演習／特別演習（卒業論文）
博物館実習 I／博物館実習 II ※3年次・4年次のみ履修可能

○ 比較芸術学会で自主的に学ぶ

「青山学院大学比較芸術学会」は、学生の皆さんが協力しあいながら自主的に学び、研究の成果を発表するための学会組織です。2013年度に設立され、学生全員と専任教員を主な学会員とします。活動内容は次の通りです。芸術全般についての専門的な研究成果を発表する学会誌『パラゴネ』の発行（年1回）。学生が主体となって、芸術や文化について自由に執筆する『HIGE会報』の発行（年3～4回）。比較芸術学会大会の開催（年1回）。また、美術・音楽・演劇映像の各分野に「研究会」があり、それぞれ鑑賞会や勉強会を定期的に開催しています。学会活動を通して、自ら学ぶことの面白さを存分に体験してください。

入試情報

詳細は本学ウェブサイトでご確認ください。

<https://www.aoyama.ac.jp/>

【一般入学試験】

	募集人員	Web 出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
全学部日程	約5名	2027年1月6日(水)～ 1月18日(月) 23:00まで	2027年2月7日(日)	2027年2月15日(月)	2027年2月22日(月)
個別学部日程	約45名	2027年1月6日(水)～ 1月20日(水) 23:00まで	2027年2月14日(日) PM	2027年2月24日(水)	2027年3月3日(水)

※出願書類提出期限は、全学部日程はWeb出願期間締切日3日後、個別学部日程はWeb出願期間締切日2日後郵送必着です。

※入学手続締切日までに、入学金を除く学費等についての延納(入学申込手続)を希望した者の入学完了手続締切日は2027年3月16日(火)です。

【自己推薦入学試験】

出願資格は、次の(1)～(3)のすべての項目に該当する者。

(1) 以下の①または②のいずれかに該当する者

① 2027年3月に日本の高等学校(または中等教育学校の後期課程。以下同じ)を卒業見込みの者※

② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を2027年3月31日までに修了見込みの者

(2) 本学科を第一志望として本学科へ進学を希望する者

(3) 以下の①または②のいずれかに該当する者

① 高等学校における「全体の学習成績の状況」が4.0以上である者

② 下記、3点すべての要件を満たす者

1) 高等学校における「全体の学習成績の状況」が3.8以上であること

2) 高等学校における「外国語」の「学習成績の状況」(評定の平均値)が4.2以上であること

3) 高等学校における「世界史探究」または「日本史探究」のいずれかの「学習成績の状況」(評定の平均値)が4.2以上であること

※日本にある外国人学校(インターナショナルスクール等)を卒業見込みの者、「高等学校卒業程度認定試験」合格者は含みません。

	募集人員	選考方法	出願期間	合格発表日
第1次審査	約8名	書類審査	2026年9月28日(月)～10月1日(木) 郵送必着	2026年11月13日(金)
第1次審査 合格者のみ		選考方法	試験日	合格発表日
第2次審査		芸術に関する基礎知識、面接	2026年11月23日(月)	2026年12月1日(火)
				2026年12月11日(金) 郵送必着

大学院文学研究科 比較芸術学専攻に進むには

本専攻の目的は、芸術系諸学との相互関係はもとより、歴史や哲学、文学をはじめとする人文科学系諸学とのそれをも踏まえながら研究を進め、掘り下げることです。取り上げる領域は、美術史学、音楽学、演劇映像学の諸分野であり、志望する学生は、各自が進む領域の基礎的学力を備えていることが前提です。入学後は専門分野の研究に入りますが、常に他領域に関心を向け、それらとの比較を通じた総合的な視野が要求されるでしょう。授業は、実作品の鑑賞研究を中心に、文献史料の読解力を蓄える原典講読や論文執筆のための文章力を鍛えるレポート作成、そしてプレゼンテーション能力を高める課題発表などで構成されています。博士前期課程では、成果を修士論文としてまとめることとなり、同後期課程では、学会発表や学術誌への投稿を経て、博士論文の作成が最終の目的となります。

比較芸術学専攻 博士前期課程

授 業 科 目		
基礎科目	比較芸術学研究法Ⅰ、Ⅱ	比較人文科学研究法Ⅰ、Ⅱ
専門科目	日本・東洋美術史(1)研究Ⅰ、Ⅱ	日本・東洋美術史(1)演習Ⅰ、Ⅱ
	日本・東洋美術史(2)研究Ⅰ、Ⅱ	日本・東洋美術史(2)演習Ⅰ、Ⅱ
	日本・東洋美術史(3)研究Ⅰ、Ⅱ	日本・東洋美術史(3)演習Ⅰ、Ⅱ
	西洋美術史(1)研究Ⅰ、Ⅱ	西洋美術史(1)演習Ⅰ、Ⅱ
	西洋美術史(2)研究Ⅰ、Ⅱ	西洋美術史(2)演習Ⅰ、Ⅱ
	西洋美術史(3)研究Ⅰ、Ⅱ	西洋美術史(3)演習Ⅰ、Ⅱ
	日本・東洋音楽史研究Ⅰ、Ⅱ	日本・東洋音楽史演習Ⅰ、Ⅱ
	西洋音楽史(1)研究Ⅰ、Ⅱ	西洋音楽史(1)演習Ⅰ、Ⅱ
	西洋音楽史(2)研究Ⅰ、Ⅱ	西洋音楽史(2)演習Ⅰ、Ⅱ
研究指導	日本芸能論研究Ⅰ、Ⅱ	日本芸能論演習Ⅰ、Ⅱ
	西洋演劇論研究Ⅰ、Ⅱ	西洋演劇論演習Ⅰ、Ⅱ
	映像文化論(1)研究Ⅰ、Ⅱ	映像文化論(1)演習Ⅰ、Ⅱ
	映像文化論(2)研究Ⅰ、Ⅱ	映像文化論(2)演習Ⅰ、Ⅱ
研究指導演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ		

修了生からのメッセージ

あなたの言葉で芸術を語るために

歌手・文筆家

比較芸術学専攻 2020 年度修了

ゆつきゅんさん

高校生のときから映画、美術、音楽などの芸術に幅広く興味があり、なぜ自分がその作品に魅力を感じるのか語れるようになりたいという思いで比較芸術学科に進学しました。同時代的なカルチャーへの関心が強い自分だからこそ、歴史を学び、文脈への理解が深まるこの学科を選択してよかったと改めて思います。芸術は突然変異的に一つだけ発生することはないと知りました。好き嫌いの良い悪いの区別もつくようになりました。

青山学院大学は日本最高の立地です。とにかく渋谷で映画を観て、とにかく大学図書館で文献を読んで、出来る限り言葉で表現していくことに時間を費やせた学生期間はかけがえないものでした。大学院では修士論文のテーマに迷ったこともあり、さらに領域横断的な学びを得ることが出来ました。芸術を言葉にすることは芸術であり、言葉の本体は心と頭です。歴史と他人の視点に積極的に潜り込み、あなただけの審美眼に辿り着いてください。

果てしない世界を巡る旅

株式会社マガジンハウス

比較芸術学専攻 2025 年度修了

村松 夏帆さん

映画研究を夢みて入学した学科で、美術史に出会い、大学院へ。さまざまな領域を横断して学ぶことができる比較芸術学科であったからこそ、いまの私がいます。

私にとって大学生活は、新たな発見の連続でした。知に出会い、無知を知る。芸術を学ぶということは、自分が生まれた世界の果てしなさを知り、目の前に広がる光景の色やかたちに気づくことなのかもしれません。大学院では、拙い地図を片手にさらなる冒険へと出かけました。より専門的な知識や方法論の実践が必要とされる場で、恩師に出会い、海を越え、山を越え、時に挫けそうになりながら友と切磋琢磨し合った日々は、私の一生の宝物です。

そしていま、芸術文化への情熱や、貪欲に知りたい、学びたいと願った好奇心旺盛さは、「雑誌」という異なるフィールドでまっすぐに生かされています。躊躇わずに、飛び込んでください。比較芸術学科・専攻での学びは、きっとあなたの人生の灯りとなり、道しるべとなってくれるはずです。



青山学院大学

文学部比較芸術学科

Department of Comparative Arts

—比較芸術学科に関するお問い合わせ先—

【文学部 比較芸術学科】

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

Tel 03-3409-9527

https://www.aoyama.ac.jp/faculty/literature/comparative_arts/

デザイン：宮古美智代&藤木敦子

絵：横山 雄

写真：ただ（1～13頁、14頁右上・左下）

編集：北川史織